

第28回 埼玉県新型感染症専門家会議 概要

1. 日時：令和3年4月24日（土）16：30～18：00

2. 会場：危機管理防災センター本部会議室

3. 委員（敬称略 五十音順）

岡部 信彦 川崎市健康安全研究所 所長（WEB参加）

金井 忠男 埼玉県医師会 会長

川名 明彦 防衛医科大学校 教授（WEB参加）

坂木 晴世 国際医療福祉大学大学院 准教授（WEB参加）

讃井 将満 自治医科大学附属さいたま医療センター 副センター長（WEB参加）

竹田 晋浩 かわぐち心臓呼吸器病院 理事長・院長（WEB参加）

松田 久美子 埼玉県看護協会 会長（WEB参加）

光武 耕太郎 埼玉医科大学国際医療センター 教授（WEB参加）

4. 県側参加者

大野 元裕 知事

高田 直芳 教育長

真砂 和敏 県民生活部長

安藤 宏 危機管理防災部長

山崎 達也 福祉部長

関本 建二 保健医療部長

星 永進 保健医療部 参事

本多 麻夫 保健医療部 参事

岸本 剛 衛生研究所 副所長

5. 主な意見

ア 埼玉県における「まん延防止重点措置」の公示を行うことに係る要請について

- 東京と隣接し、鉄道網に沿った地域にまん延防止等重点措置を拡大することに同意。ただし、その根拠については、最新の感染状況を含め丁寧に説明を行っていく必要がある。（岡部委員、金井委員、川名委員）
- 学校における部活動については試合や練習そのものより、着替えなどの場への注意をしていくべき。（岡部委員）
- 高校以上のクラブ活動では家庭内感染も含めクラスターが発生している。クラブ活動の前後に指導者が把握できないリスクがあると考える。（光武委員）
- 20代から30代の感染が増えているが、特に20代の方に対する働きかけが難しい。路上飲みや公園飲みを防ぐためにテープ等を貼って物理的な措置をとるべきではないか。また、一人飲みの推奨を強く打ち出してもよいのではないか。（坂木委員、川名委員）
- 高齢者施設のクラスターは減ってきたという印象があるが、eMATやCOVMATに依頼した時点で既にクラスターが大規模化しているケースもある。これらの施設をいかに掘り起こし、声掛けをしていくかが今後の課題ではないか。（坂木委員）
- 措置区域外の地域についても、他人事にならないように措置についてしっかりと周知することが重要である。（金井委員）
- 数字には表れない難しい症状などが増えていることから、連休中に人の動きを止めないと、1～2週間後に拡大することを懸念している。（光武委員）

【県の対応】

- 県内の感染状況、委員の意見を踏まえ埼玉県におけるまん延防止等重点措置等に基づく協力要請についてについて決定した。（4月24日開催第49回新型コロナウイルス対策本部会議において決定。）